

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-53

学校名・団体名	岡崎市立岩津小学校現職研修部
HPアドレス	http://www.oklab.ed.jp/weblog/iwasyo/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	I・C・T 岩津っ子の学び合いの創造
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>「自分の思いや考えを広げ、言葉や行動で表すことのできる岩津っ子」を目指して、伝え合う力と考える力を伸ばす普段の授業での新たな学び合いの創造を実現していく。そのために、ふれあい部会、かかわりあい部会、ICT部会が機能的に連携して、体験や交流の活性化と共にタブレットPC等のICT活用を日常化していくことで、子供が自分の思いや考えを適切な手段で、言語化したり、視覚化したりしながら、子供が主体となって協働的に学び合える場の活性化を図ることをねらいとしている。</p>	

【主な活動・研究の経過】

(1) ふるさと学習 (体験学習)・交流活動の推進 (6月~2月)

①ふるさとに学ぶ総合的な学習 (アクティブ・ラーニングの具現化)

- ・「学ぼう、伝えよう、岩津の魅力」を追究するふるさと学習の展開

学年テーマを設定して体験学習、調査学習を主体的、協働的に展開する学習を推進した。

- 1年生 昔の遊び交流 (地域講師)、幼保交流 (学校紹介等) など
- 2年生 学区探検、学区のお宝発見 (学区の自然探検、学区商店や施設との交流) など
- 3年生 学区のぶどう作り、自然体験の森探検 (ぶどう農家の方など地域講師)
- 4年生 私たちの生活と環境、ごみ問題、自然にやさしい生活の追求 (竹炭づくりの地域講師)
- 5年生 米づくりから考える環境問題 (米づくりの地域講師など)
- 6年生 地域再発見 (おかざき空襲のお話地域講師) など

②岡崎聾学校交流活動 10月実施 (1・3・5年) 12月実施 (2・4・6年)

本年度から偶数学年は、本校の持久走大会に聾学校児童が参加して交流会を企画した。

③たてわり交流活動の実施 (児童委員会の集会や各学年で計画して実施)

- ・交流給食、交流読書、なかよし交流、交流清掃などを積極的に企画、実践
- 兄弟学級での交流給食、清掃を児童が主体的に計画して実施した。
- ・岩津っ子ミーティング (地域の方を含めた話し合い) を実施し、いじめ防止にむけての学校や家庭での取組の活性化を図った。

(2) 岩津っ子の学び合いの創造

①ICT部会の取組み

- ・学び合いを活性化す ICT 環境の研究整備、校内研修の実施 (8月)
 - ・授業支援システム (マルチ OS 対応の xSync バイシンク) の試行
 - ・学び合いの授業づくりに向けた ICT 環境づくり (電子黒板ユニット等の試行)
- ・ICT活用研修 (8月、2月)

- ・先進的な実践についての研修、情報教育総合・放送教育合同全国大会への参加 (8月) 3名
- ・タブレット端末活用セミナー2016 大阪 アクティブラーニングについて研修参加 (2月) 2名
- ・主体的、協働的な学びの実現のための ICT を活用した学び合いプラン作成と実践

②ふれあい部会の取組み

- ・伝え合う力を磨く場の充実→ふれあいタイム・スピーチタイムなどの実施
- ・話すこと聞くことのルールづくり→「岩津小聞き方あいうえお」・「岩津小話し方はひふへほ」の定着、日常化

③かかわり合い部会の取組み

- ・授業実践計画 (5月)
 - ・授業でのかかわり合いの習慣化 (ICT活用、話形やハンドサインの提示、少人数での話し合い、全体での話し合いの持ち方の工夫) の手だて確認
- ・ICT活用による学び合いの深まりをめざした授業実践実践 (9月~1月)
 - ・教育委員会訪問 (9月28日)

【1年生】 生活「秋となかよし」一人一人のスズムシの飼育によって見つけたことの情報交流
教材提示装置と電子黒板機能付きプロジェクターを使ってリアルタイム動画を瞬時に共有

【2年生】 生活「学区のお宝発見」
グループ探検の視点づくりのための情報交流
グループごとにタブレット端末に表示された画像データ
に書き込みをして授業支援システムで集約、電子黒板で情報
を共有して、探検の視点を分類整理して視点づくり

【6年生】 家庭科「せんたくをしよう」洗濯前と洗濯後の比較、検討
グループごとにタブレットで洗濯の前後の画像を撮影し、
授業支援システムで集約し、瞬時に情報共有して、比較検討
の話し合いを実施→本時以後、条件や方法の比較検討にも活用



タブレット端末活用研修



タブレットで探検の視点づくり



遅延再生機能を使ってマット運動

・授業研究会 (10月、11月、1月)

- 【5年生】 保健体育科「マット運動」
倒立前転の個別学習にタブレット端末によるメタ認知を導入
タブレット端末による子供相互の試技の撮影と確認でポイント
を共有理解すると同時に、練習時間を確保するために、試技後
すぐに各自で確認できる遅延再生機能を有効活用
- 【2年生】 生活「学区のお宝発見」
探検のまとめと情報交流、思考の視覚化、学び合いの深化

各グループの発表を聞き合い、見つけたお宝についての情報共有を図る。タブレット端末での画像、動画の活用、授業支援システムによるデータの転送、集約、電子黒板機能の活用

【6年生】

特別活動「情報モラルを考える」子供たち自作のDVD教材による情報交流、思考の視覚化

スマホやゲーム機などのインターネット利用について、本校児童による問題提示のドラマ（DVD）を活用し、子供たち同士の情報交流と学び合いを活性化

【1年生】

生活「むかしのあそび」昔の遊び名人の技の動画による情報共有、試行の繰り返し

こままわし名人の技のスロー再生やこままわしのポイントごとにまとめたショートムービーを視聴することで、子供たちが情報を共有して、試行を繰り返しながら気づきの深まりを活性化

【特別支援】

1年算数「かたちあわせ」タブレット端末を使って図形の移動や形づくりの個別学習に対応

個別学習での思考の視覚化、試行の繰り返しによる理解と技能の定着に活用

・その他のICT活用

特別支援学級での個別学習支援ソフトの利用→思考の視覚化、繰り返し試行による学びの定着

授業での日常的なタブレット活用⇒記録メディア（生活・理科・社会・体育・総合など）としての利用、アプリ利用（星の観察・天気図・デジタル模造紙での意見集約など）

児童集会や交流での活用⇒記録メディアとしての利用・アプリ利用（手書き入力など）



自作DVDで情報モラルを学ぶ



こままわしの学び合い



繰り返して学ぶ「かたちづくり」



タブレットで星座を調べてみよう

【成果と課題】

・聾学校との交流や地域の人、もの、ことにふれて学ぶふるさと学習は、子供の問題意識や子供の目線から活動を展開していくことによって、子供たちの心と体にしみいる活動となった。体験学習や調査学習をふだんに盛り込んだアクティブラーニングを具現化する学び合いを展開することによって、「自分の思いや考えを広げ、言葉や行動で表すことのできる子供を育てる」きっかけをつくることのできた。

・ICT活用を中心とした学び合いの確立と伝え合う力を磨くふれあいタイムなどの多様な手だての融合を図りながら実践を進めてきた。普段の授業においても、ICTの活用とかかわり合いの手だて（ブレインストーミングやKJ法など）を絡めることによって、子供が主体的に取り組む学び合い（協働学習）を活性化することができた。こうした取り組みによって、子供が自分の思いや考えを適切な手段で、言語化したり、視覚化したりして伝え合う力を身に付けることができるようになってきた。

・思考力と表現力を伸ばし、さらにコミュニケーション力の向上を図るためには、「かかわり合い」を深め「学び合い」をいっそう活性化していかなければならない。今後、タブレットPC40台を子供たちが常にノート感覚で使えるICT環境を実現するなど、これまでの地道な授業づくりに協働学習に適したICT環境をさらに整備していくことが大きな課題である。個の情報を伝え合い、全体で思考を練り上げ、再度個々の思考を深めるようなICTの日常的な活用を実現し、思考力と表現力を備えた確かなコミュニケーション能力を子供たちに育てたいと考えている。



岡崎聾学校との交流会



伝え合い、考え合い、学ぶ合う



ICTで楽しく学ぶ子供たち